



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

「人間は考える葦である」

これから「After AI」の時代になります。AIが当たり前となり、教師の世界にも変化が生まれると思われます。川島教頭からもらった資料に「どんなにAIが発達しようとも生き残る先生とは」というものがありました。

1つ目は、「クリエイティブな先生」です。みなさんに驚きやインパクトを与えられる授業展開は必要不可欠だからです。

2つ目は、「生徒の人間力を向上させることができる先生」です。愛は本当の意味でAIはもつことはできません。みなさんの心の成長を手助けできるのは人間だけです。教師という仕事は、人間味のある仕事といえるのです。

3つ目は、「生徒の個性を見出せる先生」です。みなさんは一日の大半を学校で過ごします。学校というところは、大勢の人たちの比較の中で、その人の尖った部分が見えやすいからです。

そして、総じて言えることは、「しなやかで折れない心（レジリエンス）を育む先生」です。みなさんのしなやかで折れない心を、タイミングという武器を駆使し、関わりの中で育てていく。この「人間臭い」部分が、これからの時代には必要になると言われます。

しなやかで折れない心（レジリエンス）は、忍耐力とつながります。はっきり言って、忍耐が継続しなければ結果は出ません。でも、人は一人では生きていけない弱い存在なのです。その弱い人間は、つながることが大事なのです。

哲学者パスカルの「人間は考える葦（あし）である」という言葉を聞いたことがあると思います。生徒に「考える葦」とはどういう意味かと問うと、まあまあの生徒が、「人間は考える存在である」と答えます。そして「葦の意味は？」となります（笑）。

葦は自然の中で弱さや儚さの象徴にたとえられます。パスカルは「人間は弱いものだということを考えられる存在、これが人間。弱さの自覚から、人間はつながって生きるもの」と言っています。葦は水辺に群生しています。1本では弱いけれど、つながって固まっているので、風を受けて傾いても、またしなやかに戻ってくるというレジリエンスをもっているのです。私は、女学院という学校は、そうありたいと思っています。



パスカル

レジリエンスを高める意味で、よく「受験は団体戦」という言葉を聞きます。一般的に、学習をよくする友だちの中にいると、自分の学力にもプラスの影響があると言います。もちろん反対に、授業妨害する生徒から受ける影響もあります。当然負の影響を受けます。成績以上に人格形成に負の影響を受けるというデータもあります。これは、科学的根拠がある話なのです。

高校3年生！本気の君たちを応援している！何もしないで未来を迎えるのはもったいないぞ。6月の校長講話でお話しましたが「学んだ後は、学ぶ前とは別人である」。つまり、この夏は、変身するチャンスになります。

（学校長 重枝 一郎）

